

日本国朝臣備書丹 褚思光撰文 鴻臚寺丞李訓墓誌考



書籍番号 79075
閻焯著
2019年12月 B 5 79頁
文物出版社 ¥6,600 (本体)
ISBN 978-7-5010-6454-0
発売 北九州中国書店
TEL/093-921-6570 FAX /093-921-6585

日本の遣唐使で、奈良時代の高級官僚である吉備真備（きびのまきび、695-775）の筆跡とされる書が2019年12月25日、北京で公開されました。

■日本人直筆の「日本国」としては最古の書

筆跡は734年（唐玄宗皇帝、開元22年）6月、52歳で洛陽で逝去した官僚で、外国からの留学生や使節の接待などをつかさどった役所である「鴻臚寺」の丞（現代でいう「秘書長」）を勤めた李訓の墓誌に残されています。328文字の墓誌の落款には、「日本国朝臣備」の文字がくっきりと読み取れます。古代日本人の直筆による「日本国」の文字としては、最古の記録とされています。また、遣唐使ゆかりの遺物の中では、吉備真備が最も高い官職の人物であったと見られています。2013年、深圳にある民間博物館「望野博物館」の閻焯館長（47歳）が骨董品市場に流出した後、書の愛好家の間で転々と所有者を変えてきた李訓墓誌を入手しました。その後、6年間の歳月を費やして、綿密な時代考証、検証と調査を経て、「日本国朝臣備」は「吉備真備」だと突き止め、その成果物を15枚の写真と5万字からなる書物『日本国朝臣備書丹褚思光撰文鴻臚寺丞李訓墓誌考』として出版しました。書名にある「書丹」とは朱を用いて石上に書くことを意味します。日本人留学生により書き写された唐代の墓誌は、今回が初めての発見とされています。

李訓墓誌拓本
↓↓



李訓墓志盖拓本

大唐故鴻臚寺丞李君墓誌銘并序
 公諱訓字恒出自隴西為天下著姓曾祖亮隨太
 子洗馬祖知順為右千牛事
 文皇帝父元恭大理少卿兼史部侍郎君少有異
 操長而介立好學所以觀古能文不以曠世故士
 友重之而時人不測也弱冠以輦脚調補陳留尉
 未赴陳留而吏議君仁若至性自天柴毀骨立禮
 非在帛情登首麻堆是哀心感傷行路服闋歷去
 宰府錄事參軍太子通事舍人衛尉主簿鴻臚寺
 丞以有道之時當用人之代曠乏方騁龍泉在割
 豈不傳歟而天占其才不與其喜梁在廡而始構
 舟中添行遽震嗚呼乎辭言命蓋知之矣嗚呼年五
 十有二歲而君之二年六月廿日以疾終於河南聖
 惠寺之別院即以某月廿五日祔殯于洛陽德
 鄉之原大以書者誌以誅行乃勒石任銘云
 洪惟夫子灼灼其華之經世言而有章亦既來
 往休聞烈光如何下泝并代六世其引也蓋殯也
 用紀乎山崗
 秘書丞褚某文
 日本國朝臣備書

【目次】

↓↓

前言	5
一	8
二	10
1. 大唐故鴻臚寺丞李君墓誌銘并序	12
2. 公諱訓字恒出自隴西為天下着姓	12
3. 曾祖亮隨太子洗馬	13
4. 祖知順為右千牛事文皇帝	15
5. 父元恭大理少卿兼吏部侍郎	15
6. 君少有異操長而介立好學所以觀古能文不以曜 壯故士友重之而時人不測也	19
7. 弱冠以輦腳調補陳留尉未赴陳留而吏部君亡	19
8. 君至性自天柴毀骨立禮非玉帛情豈苴麻惟是哀心感傷行路服闋	24
9. 歷左率府錄事參軍太子通事舍人衛尉主簿鴻臚寺丞	26
10. 以有道之時當用人之代驥足方騁龍泉在割豈不偉歟而天与其才不与其壽梁在廈而始構舟中流而遽覆	27
11. 嗚呼子罕言命蓋知之矣享年五十有二開元廿二年六月廿日以疾終於河南聖善寺之別院即以其月廿五日權殯于洛陽感德鄉之原	29
12. 夫旆以書名誌以誅行乃勒石作銘云洪惟夫子灼灼其芳道足經世言而有章亦既來仕休聞烈光如何不淑棄代云亡其引也蓋殯也用紀乎山崗	43
13. 秘書丞褚思光文	43
14. 日本國朝臣備書	45
附图	69
附注	77
附录 李訓夫人王氏墓志（释文）	78
后记	79